



「ほほえみの会」2005年度総会が開かれ、
会は11年目に入りました。
総会では04年度の活動および会計報告が行われ
承されました。また、役員改選も行われ、
これまでの役員の継続が決まりました。
代表 池田恵一 副代表 小嶋隆
世話人 堀内雅士 鈴木啓之 杉山禎
会計 渡辺真澄
よろしく申し上げます。

<第121回 ほほえみの会 総会>
会員や医療関係者、学生ら45人が参加しました。

親子闘病体験談

小学4年で急性の白血病に罹った大賀 千亜季さんと父親の体験談
が披露されました。

まず父親からは、「残念ながら白血病です」と医師から言われた時
には頭は真っ白、何をどうしたらいいのか、葬式のことも考え、ど
う家に帰ったかも覚えていない。娘が入院して、病院の床屋で腰ま
であった長い髪をショートにした。その時に本人の病気と闘う気持
ちを強く感じた。以来、親が泣かないように、常に笑顔でいようと
決めた。子供たちは強い。親の方が弱いと感じるが、どんな状況で
も常にプラスの気持ちを持って前向きに考えていれば必ず良くな
ると思う。

また千亜季さんからは、病気の体験を生かし、今看護師を目指して
看護学校で勉強をしている。医療の勉強をしてみて改めて自分の病
気の怖さを知った。治療中は無我夢中だった。そんな中、親の支え
は大きかった。母親がよく来てくれたが自分は父親の方がうれしか
った。また親のイライラは敏感に感じていた。病棟の友達も出来た。
まずい薬はお茶で飲むと飲みやすいと教えてくれたり、小さい子が
頑張ると励ましの手紙をくれたりとかみんな暖かかった。今後、
忙しい中でもちゃんと説明をしてあげられる看護師になりたい。

特別講演「インフォームド アセント」
講師 静岡県予防医学協会 藤井裕治 先生 (元浜松医大小児科)

「インフォームド アセント」とは小児患者の場合、保護者だけで
なく本人にも治療の説明と同意を得ること。

もし医療者が何も説明せず抵抗をする子供を取り押さえてマルク
など痛い処置を行ったら、それが医療行為であったとしても、子供
たちにとっては「医療の名を借りた白衣の虐待行為」に他ならず、
子供たちに精神的トラウマとしていつまでも残る危険性がある。
これまでの調査で、検査の前に説明をして納得をさせると苦痛が和
らぐ結果が出ている。知らない不安が増大する。知ると安心する。
安心があると治療への主体性や、積極性、また医療者との信頼も増
す。ただし、本当に知りたいのか、本当に理解できるのか、本当に
自己決定できるのかは見極めが必要。

病名そのものより病態(血の中に悪いばい菌がいるなど)が理解でき
ると治療に前向きになる。

1～3歳では「嘘をつかない」ことが大切。3～7歳では「ばい菌」
「かたまり」「良い」「悪い」といったやさしい言葉で説明の理解が
出来る。7歳以上では病名も含めた病態説明が可能、イラストを使
い子供が分かる言葉と内容で行い、理解して意思決定できるまで繰
り返して行う。

こうした「インフォームド アセント」に十分配慮することで子供
たちの権利が守られ、QOL(生活の質)の向上が期待される。

会費の未納者が増えています。年間の切手代だけ1000円の徴収
ですので必ず納付をお願いします。会報の発送ができなくなります。
今後、会費未納者には会報の発送を辞めさせていただくことあり
ますのでご了承下さい。

次回 は 8月 14日(日) 11時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一 TEL054-247-9560

E-mailアドレス k_likeda@yahoo.co.jp

ホームページ <http://www.geocities.jp/hohoeminokai/>